

ベラルーシ公開情報取りまとめ

(2020年2月11日～2月17日)

2020年2月20日

在ベラルーシ大使館

【主な出来事】

●ルカシェンコ大統領、イグナツィオ・カシス・スイス外務大臣と会談(2/13)

●EU, ベラルーシに対する武器禁輸および政府高官4名への査証制限に関する制裁の1年延長(2021年2月28日まで)決定(2/17)

●2019年, ベラルーシIT産業の輸出額, 2018年から33.8%増の21億ドル。

【ルカシェンコ大統領動静】

●2020年政府予算および, 2019年の政府予算履行状況に関するエルモロヴィチ財務大臣の報告を聴取。

エルモロヴィチ財務大臣の報告要旨は以下の通り。

・2019年, 政府の歳入・支出ともに計画以上に執行された。収支バランスも計画以上に良好であった。財務局の全ての債務が全額, 期限内に履行された。2019年予算履行の遅延は一切無かった。

・2020年に国家が負う社会的債務は, 全額履行される見込みである。全ての最重要の支出や対外債務履行に向けた予算準備は十分である。

(2/17 大統領公式ホームページ)

●国立冬季スポーツセンター「ラウビチ」を公式訪問。

(2/16 大統領公式ホームページ)

●ゴメリ州を公式訪問し, スヴェトロゴルスク紙パルプ工場を視察。

セルゲエンコ大統領府長官, コチャノヴァ共和国院(上院)議長, レオニード・アンフィモフ国家統制委員会委員長は事前に現地入りし, 工業, 農業, 食品製造等の分野の企業を視察し, 「ル」大統領に状況の報告を行った。

スヴェトロゴルスク紙パルプ工場視察における「ル」大統領の発言要旨は以下の通り。

・森林は我々の富である。付加価値無しで輸出することの無いように, 紙やパルプ加工が必要となる。他方で, 加工時の環境問題について配慮する必要がある。

今は誰しものが環境問題に直面しており, 我々も傍観できない。

・ベラルーシは, 外国投資誘致の方法と条件を再検討する必要がある。自由経済特区では, 雇用創出に繋がったものの, 長期間, 政府の税収は無い。我々はもう少し大きなものに注目する必要がある。世界各国から企業を招致し, 我が国に投資があると自慢するのは, もう十分である。その投資から国家が得られるものは実質的に無い。

・2/7に露ソチにて開催されたプーチン露大統領との会談に関して, 一対一の朝食会談は, 共通の歴史の話題から始まり, ウクライナ情勢等, 現代の地域問題について協議した。石油分野の協議では, 過去ロシアの石油・ガス掘削事業者がゴメリ, モギリョフ, ミンスクにあるソ連時代に掘削した石油・天然ガス田から撤退した結果, ベラルーシは国際価格で石油製品を買わざるを得ず, 一方ロシアはその半分, あるいは三分の一の値段で購入している。

・ロシアはソ連の後継国であり核兵器を有し, 諸外国にあるソ連の資産はロシアに集積し, その他の旧ソ連諸国は何も得ていない。我々(旧ソ連諸国)は多くをしてきて, 多くのことで苦しんできた。

・ロシアは, ソ連の後継国として, ソ連が行った約束から逃げるべきではない。私は, チェルノブイリ原発事故で最も大きな被害にあったベラルーシへの(ロシアからの)支援がないことを理解できない。同事故の被災地域では, 同事故を原因とし木材やその他燃料が未だに使えず, 同地域へ低い値段でのガス供給を提案した。

・政府高官を交えた席では、ベラルーシ原発に関する協議から始めた。ロシア側は 2018 年内に第一ブロックを、2019 年内に第二ブロックを供給する必要があったが、納期を違反した。納期違反には多額の罰金がある。「プ」大統領からは、制裁を避けるため相互に受け入れ可能な解決策の模索の提案があり、露政府にその罰金に向けた予算がない、との発言があった。私からは、融資利率をハンガリーやベトナムの原発建設における水準(約 3%)まで引き下げ、融資返済を 2 年後ではなく、5 年後に後ろ倒しにしよう、と逆提案した。ロシア側から拒絶反応は無かった。

・ロシア政府高官では、燃料の統一価格と引替にしたベラルーシの(ロシアへの)統合が示唆されている。ベラルーシ側は、常々、平等条件を要求している。我々は、連合国家であるだけでなく、ユーラシア経済同盟加盟国である。しかし、ロシア側は、(現時点で)我々は別々の国家であると言い、一つの国家と成る必要性を示唆する。

・ベラルーシ国民も、ロシア国民も、ベラルーシがロシアの一部になることを望むことは無いだろう。(ベラルーシ国民は)反ロシアではなく、ロシアを好きで尊敬しているだろう。しかし、ベラルーシがロシアの一部になるという合体を欲しているか、という質問に対し「120%、いいえ」と答えるであろう。そして、驚くべきことにロシア国民から「どんなことがあっても、ロシアの一部に入らないで。」という手紙を貰ったことがある。

・ロシアにおいて、私が統合の提唱者であるにもかかわらず、統合を反故にしようとしている、と批判がある。私は、統合とは、経済面でいえば、我々がロシア市場で原料調達を(ロシア企業と)同価格で行い、製造し、共通の市場で販売すること、そして人的観点で言えば、自由な移動、国境の撤廃、同条件の年金制度を意味すると捉えている。

・ロシアは、経済面でベラルーシを多方向から圧している。ベラルーシ企業に対してロシアで開催される展覧会への出展を禁止しさえする。「ロシアの一部になれば、ベラルーシへ部品納入をする。そして石油とガスの価格は変わる。」と言う。これが問題の本質であり、私が合意できないタイプの人間というのは問題の

本質ではない。

・「プ」大統領にはベラルーシとの統合を利用し、権力の座に残り続けるという意向はないであろう。仮にそのような意向があったのなら、2 年前に、ベラルーシがロシアに入ることは無い、という合意がされていただろう。統一国家は、ロシアがベラルーシの一部となり、統一国家の大統領にベラルーシ大統領になる場合において、実現される。ルカシェンコである必要は無い。コチャノヴァ上院議長が最適かもしれない。初の女性だが、信頼できるだろう。なぜ我々(ベラルーシ)が向こうに(ロシアに)入ることができるのに、彼ら(ロシア)はできないのだろうか。

・私が最後の大統領となることはない。私は、大統領でなくなってもベラルーシがこの地で独立主権国であるために戦う。

・プーチン露大統領とのソチでの会談で、「何故ベラルーシがロシア石油より高い他国産の石油を購入する必要があるのか」と問いが出たが、私は、「毎年 12 月 31 日の 12 時にあなたに跪かなくて良いように、石油調達の多角化が必要となる」と回答した。ベラルーシは、(ロシア産石油を)国際価格で購入する場合、ロシアの石油企業に対しプレミアムを払うことは無い。

・現在、EU 経由の石油調達を検討している。具体的には、ポーランドのグダニスクから、石油パイプライン「ドルジバ」を通じ、サウジアラビア、アラブ首長国連邦、米国の石油を購入する。その場合、ロシアが西側に石油を供給することはなくなる。

・バルト海の港湾も石油調達で機能する。ここに米国の協力がある。我々がバルト海の港湾経由で石油を購入し、ノボポロツク石油精製工場で精製し、バルト地域に(石油精製物を)供給する。同様のスキームで、黒海を通じ、モズィール石油精製工場で精製、ウクライナや一部の EU 加盟国に供給できる。

・ロシア側からの「かえって高くつく」という指摘に対する答えは、ロシアも、ウクライナ経由の石油販売の方が安くつくにもかかわらず、トルコストリームやノルドストリームの建設に数百億ドルを投じた過去があるが、我々も同様であるというもの。

・ベラルーシとロシア間の超国家的機関設立につい

て協議していないが、統合ロードマップの作業は継続していく。

(2/14 大統領公式ホームページ)

●イグナツィオ・カシス・スイス外務大臣と会談(2/13)

ルカシェンコ大統領の発言要旨は以下の通り。

- ・ベラルーシは、スイス東部に似ていると言われる。
- ・スイスは、中立性、そして他国との関係における優れた品位により、国際関係における素晴らしい地位を築いた。
- ・ベラルーシは平坦な森林地帯、そして水資源が豊富である。貴国は、多くのスキーリゾートを有し、人々を惹き付けている。そして、我々には無い山が貴国を美しくしている。
- ・スイスとの関係は良好であるが、貿易経済面ではさらなる潜在性がある。我々には、スイス企業に対し、投資のための優遇条件を提供する準備がある。
- ・在ベラルーシ・スイス特命全権大使の任命、およびスイス大使館の開設は、二国間協力の深化に向けた良い一歩である。そして、貴大臣訪問は非常に重要であり適時である。

カシス大臣の発言要旨は以下の通り。

- ・私は他国を訪問する際、該当国の要人と会談する前に、該当国に住むスイス人と会うようにしている。今回、ベラルーシで企業経営を行っているものと、赤十字の活動をしているもの、その他3名のものと会った。彼らは口をそろえて、この国の発展を高く評価していると述べていた。
- ・ベラルーシは、東ヨーロッパのスイスである。スイスがベラルーシにとって模範として役立っていることは、私たちにとって大きな名誉である。

(2/13 大統領公式ホームページ)

●新型コロナウイルスの感染状況及び対策、並びに中国との協力に関するカラニク保健大臣の報告を聴取(2/12)

カラニク保健大臣の報告要旨は以下の通り。

- ・2/12時点で、ベラルーシ国内の感染例はなし。

・1/30以降、医療機関、検疫機関において監視活動が厳重に行われている。

・中国向けに2度に亘る人道支援を実施。

(2/12 大統領公式ホームページ)

●ニコライ・スノプコフ駐中ベラルーシ大使と会談(2/11)

ルカシェンコ大統領の発言要旨は以下の通り。

- ・中国の人々は、ベラルーシ国民が本当の友であることを知るべきである。
- ・中国は、容易ではない時を迎えている。ウィルス(新型コロナウイルス)自体だけで無い。世界は、さらに複雑な時代にある。ウィルスに関連するメディア上のフェイクニュースが拡散されている。
- ・ベラルーシは、中国の重要なパートナーの一つであり続ける。到達した高水準の協力を維持し、発展させていく必要がある。

(2/11 大統領公式ホームページ)

【外交】

●EU、ベラルーシに対する武器禁輸および政府高官4名への査証制限に関する制裁の1年延長(2021年2月28日まで)決定。

(2/17 ベラパン通信)

●マケイ外務大臣、ミュンヘン安全保障会議に出席。同会議に合わせ、クーパー米国務次官補、ハーン欧州委員、ノロフ上海協力機構事務局長と会談した。

(2/14 ベラパン通信)

●崔在ベラルーシ中国大使、インタビュー記事(2/14) 崔大使の発言要旨は以下の通り。

- ・中国は、新型コロナウイルスによる肺炎の流行を打ち負かすであろう。中国政府は、中国国民、並びに国際社会に対し、非常に責任のある立場をとっており、これまでにない厳格な対策を講じて予防を行った。流行の可能性を可能な限り防止し、公衆衛生の安全を保護する。
- ・ベラルーシのカウンターパートナーより、中国政府

がたった 10 日間で 1000 床もの病院を新設したことが重要である、と聞いた。これは、危機的状況に置ける中国の迅速性だけでなく、病気の流行と戦う中国政府と国民の一致と決意が鋼鉄よりも強いことを反映している。

・現在我々が講じた措置は成果を上げており、治療成功例は死亡例より圧倒的に上回っており、感染疑惑数増加のスピードも落ちている。

・ベラルーシはじめ、WHO や他組織の専門家を招へいし、武漢に訪問頂いている。我々は、予防及び流行対策に向け全方的かつ厳格な対策を講じている。我々の対策は、WHO や国際医療衛生基準に求められる要求を大幅に超えている。たとえば、武漢は、ウイルス拡散を防ぐため都市閉鎖の措置を取っている。

・2 月 13 日時点で、(中国を除く)世界における新型コロナウイルスによる肺炎の発生件数は 492 であるが、これは中国における件数の 0.8%程度である。テドロス WHO 長官は、中国の流行対策を賞賛している。

・WHO は国外旅行に対し不要な制限をかける理由がないことを繰り返し強調し、国際社会にデマを信じないよう呼びかけた。最近、WHO は、新型肺炎を COVID-19 と名付け、「武漢肺炎」や「中国コロナウィルス」と名付けるマスメディアの情報とは対照をなす、中国が講じる措置に対する国際社会の堅い支援を表明した。

・もちろん、病気の流行により引き起こされた問題を軽視するわけでは無い。同時に、世界各国が WHO の勧告を尊重し、中国と平時同様の協力を継続することを願っている。

・ベラルーシの外務省、保健省、教育省、その他政府省庁は、適切な措置を講じ、中国との真に効果的な協力関係を構築している。現在、ベラルーシは、2 度に亘る人道支援を行った。中国は、中国人学生や中国人労働者に対する友好的かつ非差別的措置に感謝している。多くの中国人は、ルカシェンコ大統領とベラルーシ国民に感謝するため、インターネットで「真の友は難事で分かる」という言葉を使っている。

・ベラルーシの行動は、ベラルーシ大統領と国民の深い友情や決意ある支援だけでなく、ベラルーシ・中国

関係の高い水準での発展、信頼ある全方位的な戦略的パートナーシップ、ならびに、戦略的指導者と両国首脳間の個人的な配慮に基づく相互に利益のある協力を反映している。

・我々は、ベラルーシ国民の中国国民への適時かつ重要な支援に感謝しており、中国国民、および政府の新型コロナウイルス流行対策に向けた固い決意を強化したと考えている。

(2/14 ベルタ通信)

●マケイ外務大臣、イグナツィオ・カシスと会談(2/13)

会談後、マケイ大臣の記者会見における発言要旨は以下の通り。

・我々は、政治や相互貿易、投資誘致、経済協力、人権分野の共同プロジェクトに至るまで幅広い課題を議論した。

・今回のスイス外務大臣の訪問が、ミンスク 2 の合意から 5 周年の時期に当たることは、注目に値する。

・ウクライナ紛争の調停においてスイスは重要な役割を果たしている。2014 年、スイスが OSCE の議長国であった際に、ウクライナ紛争の調停に関する大きな決定がなされた。今日、三者コンタクトグループがあること、そしてスイス人であるハイディ・グラウ・三者コンタクトグループ OSCE 特別代表であることは、スイスの平和愛好的外交政策のおかげである。

・地政学上の大国によるベラルーシやスイスといった中規模の国家に対する影響力がどのようなものであろうと、我々には、国際社会における両国の効果的な相互作用のための礎を築く相互共通の利益がある。

・本日の会談で、地域ならびに世界全体に存在する紛争を解決するための国際舞台での取り組みの相互作用に関し、議論した。

(2/13 ベラパン通信)

経済

【対外経済】

●2019 年、ベラルーシ IT 産業の輸出額、2018 年から 33.8%増の 21 億ドル。

(2/17 ベラパン通信)

●中国木材加工企業，ベラルーシ自由経済特区「ヴァイテブスク」に入居し，総額 2800 万ドル投資予定。

(2/15 ベルタ通信)

●ベラルーシ政府，露国営企業ガスプロムとガス価格協定に署名。

ベラルーシは，2020 年 1 月～2 月において，ロシアのガスを 2019 年と同じ価格，127ドル／1 立米で購入することで合意した。

(2/14 ベラパン通信)

●2019 年ベラルーシへの外国投資高は 100 億ドルと 2018 年対比 8 億ドル減少。

主な投資国は，ロシア(45.1%)，英国(18%)，キプロス(7.6%)。

(2/12 ベラパン通信)

内政・治安

●2019 年，汚職有罪判決数，2018 年 1005 件に対し 2 件増の 1007 件。

(2/12 ベラパン通信)

(了)